

適期・適量の穂肥施用で高品質・収量確保 ～出穂期予想と穂肥診断のポイント～

1 出穂予想と穂肥のめやす(分施肥体系) ※6月16日現在 平坦地予想

○本年の出穂期は、早生は平年より1日程度早く、コシヒカリは平年並の予想です。

品 種 名	出穂予想日	穂肥施用時期				2回の合計窒素 成分量(kg/10a)
		1回目	出穂前日数	2回目	出穂前日数	
五 百 万 石	7/21頃	7/1頃	20日	7/9頃	12日	2
つきあかり	7/22頃	6/22～27頃	30～25日	7/8頃	14日	3～3.5
こしいぶき	7/24頃	7/1頃	23日	7/10頃	14日	2
こがねもち	7/30頃	7/12～15頃	18～15日	7/20頃	10日	1～3
コシヒカリ	8/3頃	7/16～19頃	18～15日	7/24頃	10日	2

※早生品種(五百万石、つきあかり、こしいぶき)は5月上旬に移植した場合を想定

※こがねもち、コシヒカリは稚苗5月10～15日頃、中苗5月15～20日頃に移植した場合を想定

※出穂期は今後の天候等により出穂予想日が前後する場合があります。今後の最新情報を参考にしてください。

2 穂肥診断のポイント

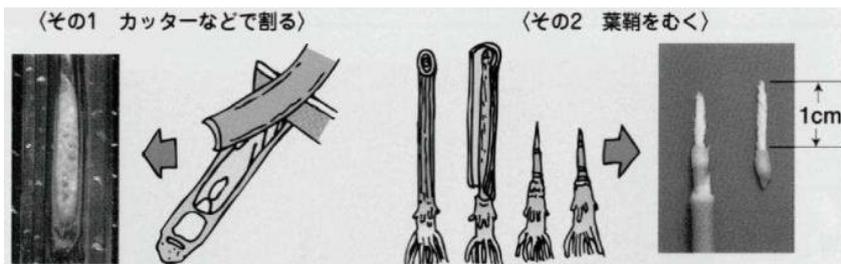
○穂肥は、以下の手法で稲の生育診断を行うとともに、天候や病害虫の発生状況及び地力等を総合的に判断して決めましょう。

○穂肥施用時は浅めに湛水し、その後は飽水管理を継続しましょう。

(1) 穂肥診断の手順

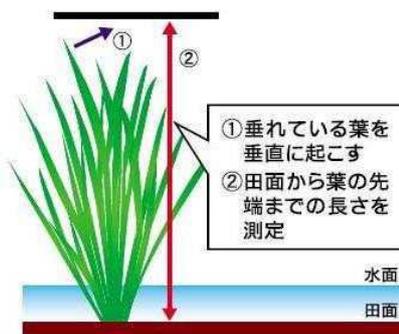
① 幼穂長を測り出穂前日数を判断する。

【幼穂長と出穂前日数のめやす】

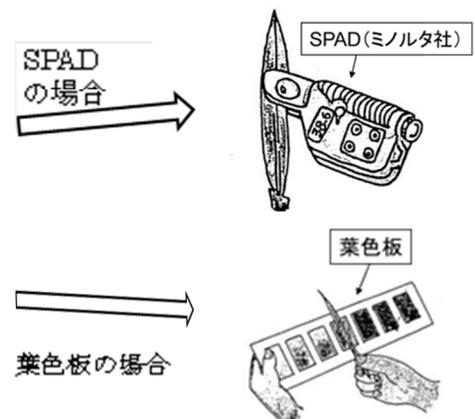
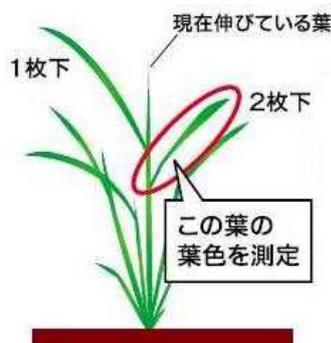


幼穂長(cm)	出穂前日数
0.02	30日
0.1	24日
0.2	20日
0.5～1.0	18日
4.0～6.0	12日
10.0～12.0	10日

② 草丈を測る。



③ 葉色(単葉)を測る。



(2) コシヒカリの穂肥診断 ～診断結果を基に、施用時期及び施用量を判断しましょう。～

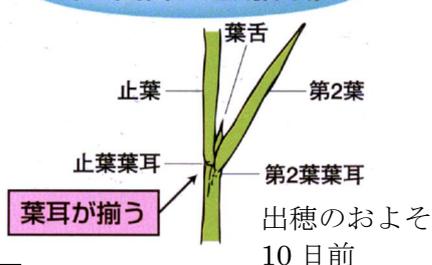
【1回目の穂肥:幼穂形成期(出穂24日前頃)の生育による診断】

葉色(単葉) 草丈	SPAD値 : 34~32 又は 葉色板 : 4.2~3.9	SPAD値 : 35以上 又は 葉色板 : 4.4以上
70~75 cm以内	施用時期・施用量とも基準どおり ■出穂18日前に1.0kg/10a	施用時期を遅らせる ■出穂15日前に1.0kg/10a
75~80 cm以内	施用量を減らす ■出穂18日前に0.5~0.8kg/10a	施用時期を遅らせ、施用量を減らす ■出穂15日前に0.5~0.8kg/10a
80 cm以上	施用できない	施用できない

【2回目の穂肥:出穂12日前頃の葉色による診断】

出穂14日~12日前の葉色	出穂10日前の施用量 (10a当たり)
SPAD値 : 34~32 又は 葉色板 : 4.5~4.2	基準どおり施用する 1.0~1.5kg/10a
SPAD値 : 35以上 又は 葉色板 : 4.6以上	施用量を減らす 0.7~1.0kg/10a 未満

第2回目の適期診断



○2回目穂肥は、後期栄養維持のため確実に施用しましょう。

【3回目の穂肥:出穂3日前の葉色による診断】

夏が高温で、出穂期3日前の葉色が薄い場合(SPAD値31以下、又は葉色板4.0以下)は、出穂前3日に、窒素成分で1kg/10a施用する。(*葉色が十分確保されていれば不要)

(3) こしいぶきの穂肥診断~1回目の穂肥は草丈・葉色から判断し、2回目の穂肥は確実に施用~

【1回目の穂肥:幼穂形成期(出穂24日前頃)の生育による診断】 ※葉色の数値は参考値

葉色(単葉) 草丈	SPAD値 : 36以下 又は 葉色板 : 4.6以下	SPAD値 : 37以上 又は 葉色板 : 4.7以上
60 cm未満	施用時期・施用量とも基準どおり ■出穂23日前に1.0kg/10a	施用時期を遅らせる ■出穂20~18日前に1.0kg/10a
60 cm以上	施用量を減らす ■出穂23日前に0.8kg/10a程度	施用時期を遅らせ、施用量を減らす ■出穂20~18日前に0.8~1.0kg/10a

【2回目の穂肥】

- 施用時期 : 出穂14日前
- 施用量 : 1.0kg/10a
- ※低地力ほ場や後期栄養の不足が懸念される場合は、1.5kg/10a施用

3 病虫害防除

(1)いもち病

○生育量が大きく葉色が濃いほ場や、過去に発生が見られたほ場では、こまめに確認を行い、早期発見・早期防除に努めましょう。

(2)斑点米カメムシ類

- 例年、中山間地を中心に斑点米カメムシ類による被害が発生しています。出穂前に農道・畦畔の草刈りと本田防除を徹底しましょう。
- 水田内の雑草(ノビエ、ホタルイ)は、斑点米カメムシ類を誘引し、その増殖を助長するため除草を徹底しましょう。

お問い合わせ : 上越東農林事務所 普及課 作物担当
TEL : 025-592-3848 FAX : 025-592-3591